

# 堂谷津の里から

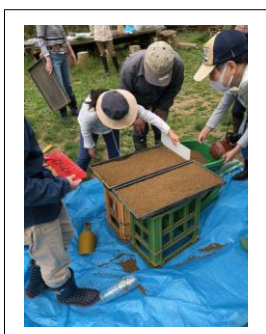
堂谷津の里は、木々が芽吹き、散策路にはスマレなどの草花が咲き、カエルの鳴き声が響く、穏やかな春を迎えています。昨年、新型コロナ感染拡大のため中止にした「親子で米づくりと自然の体験」について、今年は、感染防止対策を徹底して実施することにしました。初回の4月3日には、会員と一緒に6家族が賑やかに種まきを行い、その後、自然観察をしながら里を巡り、また、その成長を楽しみに植樹も体験しました。その様子とともに堂谷津の里ならではのニホンアカガエルについての報告を掲載しました。5月2日からは田植えが始まります。田植えに向けてビニールハウスで、続いて田んぼで、丈夫な稲の苗を育てています。

## 【田んぼでは】



塩水選済みの種もみを温湯消毒（60℃、10分間）し（写真左）、リニューアルなった洗い場で浸漬（約10日間）し（写真中央）、種まき前日から機械で催芽（写真右）を行い、種まき準備をしました。

## 【親子で米づくりと自然の体験】



苗箱に培土入れる。



水をたっぷり含ませる。



種を均一にまく。



覆土する。



トンボ池でオタマジャクシ観察



ドングリから育てた3年生のコナラの植樹

## ニホンアカガエル 卵からオタマジャクシへ

2月中旬、ニホンアカガエルの産卵が始まりました。卵塊は例年に比べて小さく直径7、8cm程のかわいいものが目立ち、若いカエルが産卵に下りてきたことがわかりました。

卵は透明なゼリーに包まれ、500～3000個が一つの塊として産みつけられます。卵塊は日に日に水を含んで膨らみ、2～3週間程でオタマジャクシになり、5、6月に変態、他のカエルより一足早い子ガエルの誕生です。その後、カエルは水場を離れ近くの林の中で過ごします。

アカガエルの産卵はユニークです。他のカエルより寒さに強いとはいえ、厳寒期の2月、冬眠を中断して田んぼや浅い水路へ下りて産卵します。「キョッキョッキョッキョ・…」と鳴くのはオス、それほど大きな声ではありませんが暖かな日はあちこちから聞こえてきます。繁殖行動の前兆か？後ろから抱きついたり、振り落としたり…。やがて夜から早朝にかけてオスがメスに繁殖を促し、その後精子をかけて受精します。産卵を終えたアカガエルは、林内に戻って本格的な春まで二度寝です。他のカエルに先んじて産卵を行うのは、天敵が目覚める前に・・・スタートダッシュというわけです。

以前は普通に見られたアカガエルも現在は水田の乾田化、湿地の荒廃などによって産卵の場が限られ希少動物となっています。けれども堂谷津の里では、湧水による冬水田んぼがアカガエルの大切な産卵場所となり、それに続く斜面の林でアカガエルを一年中見ることができます。

春一番の関心事「ニホンアカガエルの産卵」が終わり、オタマジャクシが元気に泳いでいます。生き物どうしの“食べる食べられる”関係も自然の摂理、カエルになれるのはごくわずかですが生態系の要であるカエルの生息環境を守っていきたいと考えます。(H. H)



田んぼに産卵した卵塊  
今年は744個確認



3月中旬 オタマジャクシで  
にぎわう田んぼ



待ち遠しい5月 畦に  
上がった子ガエル(昨年)

#### <情報コーナー>

5月2日～4日に田植えを行います。多くの会員の皆さんの参加をお願いします。詳しくは、ホームページに掲載します。なお、2日は一般の参加者と一緒の田植え、4日は親子体験と一緒の田植えになります。

#### NPO 法人バランス 21

E-mail :yatosatoyama@gmail.com

URL :https://balance21.jimdo.com/

連絡先：千葉市若葉区谷当町70

TEL & FAX:043-239-0645 (現地)